

【論考】

集まってしまった文具 ～捨てられない鉛筆を中心に～

奈良女子大学 文学部

松林 実佑

<目次>

1. はじめに
2. 文具の蒐集と集まってしまった文具
3. 集まった文具～アンケート調査より～
4. 捨てられない鉛筆～SNS やウェブサイトの情報から考える～
 4. 1. 悩みのすがた：実態からさぐる諸類型
 4. 2. 解決のありか：人々はどう対処しているのか
5. 考察：“文具が捨てられない”は贅沢な悩みなのか
 5. 1. 贅沢である論
 5. 2. たかが文具、されど文具。
6. おわりに

1. はじめに

全色揃えたのに全然使っていないカラフルな色ペン、パッケージが異なるだけの同じペン、使いきれないマスキングテープたち。みなさんの手元にはこんな文具はあるだろうか。身近な持ち物である文具の中には、ついつい必要以上に買ってしまったものや、いつまでも手放せずに持ち続けているものも多いだろう。このように気づけばたくさんある「集まってしまった」文具とは一体どういったものだろうか。本稿では、ゼミ生の「集まってしまった」文具エピソードや SNS などの投稿を基に、文具が集まってしまふ経緯やそれらへの対処法など、「集まってしまった」文具と人々の関係を考察していきたい。

2. 文具の蒐集と集まってしまった文具

そもそも「集まってしまった」文具とは何か。文具がひとりで動いて集まってくるという、非現実的ともいえる事象が起こらない限り、これらが集まるには必ず何かしらの理由が存在する。まず一番に思いつくのは、私たちが自発的に集めること、即ち「文具の蒐集」で

ある。

「インク沼」や「文具コレクター」という言葉を聞いたことがある人もいるかもしれない。世の中には万年筆やガラスペンのインクに魅せられて買い集める人や、廃盤になってしまったものを好んで集め保存する人、異なる材質の紙やペンなど様々な文具をコレクションしている人がいる。もちろん多額の資金や時間を使わずとも、可愛い柄のマスキングテープを少しずつ集めてみるのも立派な「文具の蒐集」と言えるだろう。古来より、中国の文人が書齋で使用していた必要不可欠な道具である筆・墨・硯・紙は「文房四宝」と呼ばれ、中でも半永久的に使用できる硯は愛玩の対象になることもあったという。歴史的に見ても「文具の蒐集」とは奥深いものである。

しかし、自発的に集める「蒐集」では「集まってしまった」とは言えない。積極的に集めているわけではないのにたくさんある、あるいは、気づけば増えているというようなものが「集まってしまった」文具である。一見、意図せず集まったように見えるこれらにも「集まってしまった」理由があるはずなのだ。

3. 集まった文具～アンケート調査より～

集まってしまった文具の実態を探るべく、ゼミ生を対象に手元にある文房具についてのアンケート調査を行った。

・あなたは物を溜めこむタイプですか？

— 「はい」 58.3% 「どちらかといえばはい」 25%

— 「いいえ」 8.3% 「どちらかといえばいいえ」 8.3%

回答者の8割は物を溜めこむタイプであると答えた。「集まってしまった文具」が存在する大きな理由として、捨てられないということが挙げられる。服や小物、雑誌などをなかなか捨てられずにずっと持っている人は、文具も同様に溜め込みやすいと考えられる。

続いて、意識して集めているわけではないが、なぜか多く持っていると感じる文房具について、記述式で回答してもらった。

「物を溜める」と回答した人の集まってしまったエピソード

- ・鉛筆が20本程度。小学生時代に景品で貰った。未使用で勿体なく捨てられない。
- ・鉛筆が数10本。小学生時代の残り。未使用と使用済みがある。
- ・カラーボールペン5本弱。貰い物。いつか使うかと思ったが数年使わずそのまま。
- ・カラーボールペン11色。過去に好きなキャラのイメージカラーを蒐集したが、ほぼ使わない色もあった。現在は使っていないが多分まだ持ってる。

- ・シャープペンシル 10 本。塗装の剥げや紛失に伴って買い替えた。剥げてもまだ使えるので捨てられず溜まる。紛失したものが後で見つかったこともある。
- ・蛍光ペン 20 本弱。貰い物が大半。貰えるものは貰っておく性格が原因かも？
- ・メモ帳 15 個程度。誕生日プレゼントで貰ったが使わなかった。貰い物で捨てにくい。
- ・カラーペン 20 本くらい。小学生の時に使っていた匂い付きのカラーペンはインクが出なくなってもなぜか捨てられない。鉛筆は削っていくと絵柄が見えなくなるから捨てる時も捨てやすいが、ペンは絵柄が好みのものだと捨てづらい。
- ・鉛筆 7 本。未使用が 5 本で、短い 2 本は補助器をつけたまま置いてあった。
- ・消しゴム 10 個以上。使いにくく使用をやめたが、もったいなくて置いていた。デザインが好きで使うのがもったいなくて結局使っていないものもある。
- ・鉛筆約 15 本、シャープペン約 10 本。どちらも学校や何かの景品でもらったりして捨てるのももったいなし溜め込んでいたんだと思う。あと文房具ってそのままゴミ箱に入れて捨ててしまってもいいのかもわからなかったし、一つ一つはそこまでかさばるものではないのでそのまま放置になったのか。

「物を溜めない」と回答した人の集まってしまったエピソード

- ・マーカーペン (10 本くらい)。セット販売されているものを買った。
- ・比較的多いのは黒ボールペン。使用頻度が高いが持っていたことを忘れてすぐ購入してしまう。ノベルティなどで配られることが多い。

捨てにくい理由について

- ・シャープペンなどプラスチックを含む文房具は捨てる時の分別がわからないため、捨てるのをめんどくさくなって溜まってしまう気がする。
- ・文房具が捨てられないのは「分別的に捨てる方がわからない」ってことと「まだ使おうと思えば使えるのに捨てるのは罪悪感がある」ってことが私の中では大きかったのかなと思う。

ゼミ生の集まってしまった文具エピソードをみると、文具が手元に集まる要因としてやはり「捨てられない」という感情がよく見られる。詳しくみると、捨てられない理由として多いのが「まだ使える」ということである。シャープペンシルの塗装が剥げたことによって買い替えたが捨てられない例では、剥げている見た目を気にして使わなくなったのに、まだ使えるという機能面を考慮して捨てていないことがわかる。シャープペンシルを使うようになったことで鉛筆を使わなくなったが、まだ使えるので持っている例も同様に、機能面での不備がないことを理由に捨てていない。

一方、物を溜めない人のエピソードでは捨てられないことで集まったというケースは見られず、それ以外の理由で複数持つことがあるようだ。

また、文具が捨てにくい理由について、分別方法の迷いや罪悪感を挙げていることもあり、これらのエピソードから、文具の捨てられなさには複数の要因や感情が関係していると考えられる。

では以下は、エピソードの中で複数挙げられた筆記具のうち、鉛筆に絞って考えていこう。

4. 捨てられない鉛筆～SNS やウェブサイトの情報から考える～

4. 1. 悩みのすがた：実態からさぐる諸類型

①なんでも溜め込み型

Q.1 大量の使い差しの鉛筆やペン類。どうしたら。。。

部屋を整理していたら、使い差しの鉛筆やボールペン・水性ペン・シャープペン等の筆記具が大量に出てきました。まだ書けるもの以外は捨てましたが、それでもたくさんあります。

家で家族が使用するにはこんなにたくさん必要ではありませんし、かといって、捨ててしまうにはもったいない気がします。使い差しの筆記具なんて、そこそこ高価な物でないと、オークションに出すわけにもいきませんし。

何か良い利用・処分方法ってありませんか？

・教えて!goo <https://oshiete.goo.ne.jp/qa/717902.html> (2003年11月29日投稿)

Q.2 小学校の頃使っていた鉛筆が大量に余っていて、捨てるのはもったいないと思いつつも、使い道がなくて困っています。

寄付も考えましたが、いくら必要だからと言っても、使いかけの物を寄付することはそれを使う子どもに失礼なのではないかと思ってしまう。

どうしたらいいと思いますか？

—回答ありがとうございました。皆さんの意見を踏まえて、短くて使いづらそうなものは捨てて、新品に近いものは寄付やフリマアプリに出品しようと思います。

・Yahoo!知恵袋 https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q12225650597

(2020年5月25日投稿)

なんでも溜め込み型は、上の電子掲示板で質問されているように「まだ使えるのに捨てるのはもったいない」という考えから手放せないという悩みである。ゼミ生へのアンケートの中にも、未使用の鉛筆がもったいなくて捨てられないという回答が複数見られ、鉛筆に限らずものが集まってしまう一番の原因ではないかと考えられる。

ところが、溜め込み型の中には、短くなって単体では使えそうにない鉛筆は捨てること出来る人と、もう使えないものでも捨てられない人が見える。掲示板の質問者は「使いづらそうなものは捨てて」と述べているように、両者ともに、もったいなさから溜め込んだものの使えなくなった場合は手放すことが出来るタイプのようだ。ここで

のなんでも溜め込み型は、当時はもったいないと思って全て溜め込んだが、よく見ると使えないものも含まれており、それは捨てると思えば捨てる事が出来るという点で罪悪感型と区別できる。

後者の、使えないものでも捨てられない例は、次の罪悪感型で取り上げることとする。

②罪悪感型

Q.3 子供が高校生になり、大量の鉛筆が残されました。もったいないので親が使用していましたが、短くなり握るのが不効率になったものが増えてきました。

さらに短くなるまで使用する方法はさておき、「もう、これ以上(書くのには)使えないよ！」となった鉛筆をどのような処分されていますか？

ゴミ箱に入れるのは何か抵抗があります。

・読売新聞：発言小町 <https://komachi.yomiuri.co.jp/t/2013/0415/586502.htm?p=0>

(2013年4月15日投稿)

Q.4 鉛筆の捨てる長さは？

子供の使ってる鉛筆でわりと短くなったものが何本もあるのですが、どこまでで捨てていいのか考えてます。

キャップをつければ限界までいけそうですが、自動ではもはや削れないし、手動もめんどくさいし、学校には使いやすいように長いのを持たせてますので、家でどのくらいまで使わせて捨てるか……

みなさんは思い切って捨てられますか？

A.4 キャップを付けずに持つことが出来ないものは捨てます。大体6cm くらいでしょうか。

ちょうど、その事でうちの子と話題になりました。

友達の中には、キャップをつけて何とか使えるだけ使う。という子も結構いるようで、「そんなに長いのに捨てるのはもったいない」、「エコじゃないね」なんていわれたそうです。

・Yahoo!知恵袋 https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1419091494

(2008年9月12日投稿)

ここでの質問者は、使えなくなった鉛筆を手放そうと思っているが、単純にゴミ箱に入れてしまうことに対して抵抗を感じている。もったいなさから溜めて使い切った結果手放すという選択に対しては抵抗がないが、捨てるという行為には違和感があるということだ。もう使えない鉛筆を手放すときに、「捨てる」以外の方法を探しているのではないかと考えられる。

また、二つ目の質問では、どのくらいの長さまで使えば捨てても許されるのか意見を求めている。これは「まだ使えるのに…」という罪悪感はどこまで使えば無くなるのかという話に繋がるのではないだろうか。

③愛着型

A.4 確かに鉛筆はかなり短くなってます。3～4センチぐらいまでになってるのもあります。筆箱の中には長いものを入れてますが・・・短い鉛筆、私が捨てられないんですよ。思い出つて言うか、なんと言うか。でも、そろそろ処分しなきゃって思ってます。

(2008年9月12日投稿)

Twitter より

・未だかつてこんなに小さな鉛筆を見たことはない。
たくさん色んなものを書いてきたんだよね。文字も書けない頃からずっとずっと。この鉛筆だけは捨てられない。

10年後、13年後の娘のお守りにする

・友達に『なんか書くもの貸して』と言われて間違えてこんな短い鉛筆出しちゃって『貧乏性？』と言われたけど。勉強一緒に頑張ってくれた鉛筆だから、なかなか捨てられないだけだもん

・なかなか捨てられない鉛筆。よく頑張った思い出でなかなか捨てられないんです

・鉛筆がちびてきた。もう鉛筆削りでも削れない。しかしここまで使うと愛着わくのよな。ナイフ買ってこようかしら？

・祖母が亡くなった時、遺品の中から私が捨てたはずのたくさんの短い鉛筆が出てきた。もったいなくて拾って使ってたのかなと思っていたけど、親になった今、3人の子供たちが使った鉛筆が捨てられない。これはもったいないからじゃなく、ただただ愛おしいからなんだ。祖母もきっとそうだったに違いない。



愛着型は、特に短い鉛筆に対して言及されていることが多い。長期間使っているうちに短くなった鉛筆に、そこに至るまで共に歩んできた時間の流れや苦労、努力などの感情を重ねて愛着が湧いてしまい、手放すことが出来ないという悩みである。中には手動の小さな鉛筆削りやナイフを使って1cm前後になるまで使い続けたという例もあり、そこまでして使い続けた鉛筆への愛着の大きさは計り知れない。普通なら持てなくなった時点で使うのを止めてしまうだろうが、手間をかけて削り、失くさないように丁寧に扱ってきたものだからこそ捨てにくいのもかもしれない。

もったいないから置いておく溜め込み型や、捨てる行為にためらいを感じる罪悪感型とは異なり、思い入れが強くて捨てられず集まっていくという点が愛着型の特徴である。

4. 2 解決のありか：人々はどう対処しているのか

① 供養型

A.3 面倒でなければ、針供養ならぬ鉛筆供養されては？

私は絵描きなので、ギリギリまで鉛筆補助軸で使った後、小さな小瓶にストックしてます。溜まったら、お寺なりお正月のどんど焼きなりに持参して供養するつもりです。

(2013年4月15日投稿)

葛飾区の北星鉛筆さんにある「鉛筆神社」にて、鉛筆感謝祭が執り行われました。子供たちの勉強などに役立つために、身を削って短くなった鉛筆への感謝を表しました。長さ1cm までになった鉛筆もあり、鉛筆への愛着も感じられます。

<https://twitter.com/gekkanbunbu/status/944442696092889088?s=20>

鉛筆供養・鉛筆感謝祭

「我が身を削って人のため」
短くなるまで貢献した鉛筆を、ゴミ箱に捨てるのは・・・
短くなった鉛筆に感謝の気持ちを込めて、鉛筆を供養しましょう。
伊江白髭神社より派遣された宮司により
北星鉛筆「鉛筆神社」にて鉛筆供養を執り行います。
合わせて、鉛筆感謝祭を開催します。
楽しいイベントを用意していますので是非遊びに来てください。

日時：11月23日 10時～14時30分
※鉛筆供養は14時から執り行います。
場所：東京ペンシルラボ・北星鉛筆「鉛筆神社」

鉛筆供養当日も、短くなった鉛筆5本と「白髭神社鉛筆1本」と交換致します。
家にある短くなって使えなくなった鉛筆を持って来て下さい。

東京都葛飾区にある北星鉛筆株式会社では、使い終わった鉛筆に感謝の気持ちを込めて「鉛筆の供養」が行われている（左図上はその案内[部分]：同社ウェブサイトより）。短くなった鉛筆を「東京ペンシルラボ」内にある鉛筆地蔵に入れると、毎年行われる鉛筆感謝祭にて供養してもらうことが出来る。また、工場見学の際に5cm以下まで短くなった鉛筆を5本持っていくと、オリジナル鉛筆1本と交換してもらえらる。

奈良県大和郡山市にある西方寺では、1970年から毎年、使って短くなった鉛筆に感謝する「鉛筆供養」が行われている（左図下はその報道[毎日新聞2016.5.15付 地方版]）。住職の「もったいないと思う心を育てたい」という思いから始まったそうだ。

元来、供養とはヒンドゥー教や仏教において種々なものを捧げる形式を指すが、日本においては、死者の霊を弔うことを供養と呼ぶことが多い。また、生き物以外の物品に対しても供養を行うことがあり、思い入れのあるものを祀ったり焚き上げたりする。

鉛筆供養

鉛筆に「ありがとう」

／奈良

会員限定有料記事 毎日新聞 2016年5月15日

奈良県 >



感謝を込めて鉛筆を納める子供＝奈良県大和郡山市で、塩路佳子撮影

短くなった鉛筆を単に不要物として捨てるのではなく、「鉛筆供養」やどんど焼きという行事の中で供養してもらうことで長年の感謝を表すと同時に、惜しみながらも手放す区切りの機会として利用しているのではないだろうか。

②見て見ぬふり型

A.3 私は文房具が好きで、特に鉛筆が大好きです。

ちびた鉛筆くん達は、可愛いカンに並べてうっとり眺めています。

トキメキの対象なので、捨てませんよ～。

捨てるどころか、私の宝物ですね。

(2013年4月15日投稿)

捨てられない鉛筆を結局どうすることもしないでそのままにしておく、というのも一つの対処法と言えるだろうか。この書き込みでは、使えなくなった愛着のある鉛筆を「宝物」として手元に置いておくことを宣言している。この場合は「捨てる」という選択をしないというのに近いかもしれない。

③相談型

今まで例に挙げてきたように、インターネットの電子掲示板には持て余した文具についての質問や相談が多数寄せられている。これらの相談の中には、単純に処分方法が思いつかないので教えてもらいたいというものもあれば、処分方法の候補はあるが悩んでいるというものもある。捨てるにはもったいないのでどうにかしたい、もう使えないのに捨てられないので困っている等、その悩みは様々である。

前者には溜め込み型が多く、いざ手放すとなればすんなりと手放せる人が多いように見える。一方で、後者の手放せなくて困っている人は、他人に指示を仰ぐことで手放すきっかけにする、自分だけではなかなか踏み切れない解決への一歩を踏み出すために相談しているのではないだろうか。

さらに、このような捨てられないという相談に対しては、「捨てられないなら最後まで使ってしまうえばいい」と使い切る方法を提案されることもある。

A.3 まず、1本目の使い始めは塗料の塗ってあるお尻の方から削ります。持ちにくくなるまで短くなったら、2本目の頭と木工用接着剤で接着します。

1本目部分が先の三角のみになったら、手でパキッと折り取れるのでそのみ捨てます。

先の三角部分のみでも捨てるのに躊躇しますか？私はこれで、かなりもったいない感が無くなりましたが…。

(2013年4月15日投稿)

A.3 子供の頃は短くなった鉛筆の端同士、お尻同士を合わせてホッチキスで止めて使ってみました。結構ちゃんととまるし、鉛筆の両端に芯が出ている先があるので、どう鉛筆をとっても持ち替えずにそのまま書いてなかなか良かったですよ。

(2013年4月16日投稿)

上のような接着剤などで新品とつなげて使い切る作戦や、短くなった鉛筆を差し込む

ペンシルホルダーの使用、中島重久堂が発売した『TSUNAGO』のような“鉛筆をつなげるための鉛筆削り”など、様々な最後まで使いきる方法・工夫が紹介されている。

5. 考察：“文具が捨てられない”は贅沢な悩みなのか

5. 1 贅沢である論

A. 1家庭で眠っている筆記用具を集めて恵まれない地域などに寄付している団体が多くあるみたいです。いっそのこと、ご寄付なさってみてはいかがでしょうか？

「新品のみ」というところが多いのですが、探してみれば使いかけでもかまわないところもあるようです。
(2003年11月30日投稿)

捨てられないという相談に対してよく見られるのが、このような「寄付」という提案である。日本には、発展途上国の貧困層の子供たちや国内の児童養護施設へ、支援ボランティアの一環としてランドセルや文具などを送り、教育支援活動を行なっている NPO 団体や NGO 団体が複数存在している（→文具ゼミ 2020 論考「豊かさと文具」も参照のこと）。未使用新品の文具や少しだけしか使っていない文具をそのままプレゼントする、リサイクルショップに再販した売り上げを寄付する活動の他、使えない文具をリサイクルして新しいものに変えて届けるという活動もある。

もちろん、使わないからと言ってなんでも寄付すればいいというものではない。壊れているものは寄付しても使えないし、短くなりすぎた鉛筆も、リサイクルにかかる費用や送料なども考慮するとマイナスになるかもしれない。寄付できる基準にあるものを確認して、文具の手軽な処分方法として利用しないように注意しなければならない。

とはいえ、誰の目から見てもまだ使えるような鉛筆を寄付するという手は、単純に溜め込みやすいだけの人や、まだ使えるものを捨てることに罪悪感がある人にとっては良い解決方法になり、ボランティアにもなる、一石二鳥な活動のように見える。

このように物資がなく困っている人々がいる一方で、「文具が捨てられない」「使わないのに手放せない」というのは、物が余るほど得られる環境にあるからこそ生じる贅沢な悩みと言えるのではないだろうか。

5. 2 たかが文具、されど文具。

鉛筆などの文具は、割り箸などに比べて長く使用し、さらにそれによってさまざまな表現行為をする道具である。よって、使用していく内にだんだん自分の分身のようになってくる傾向がある。受験の時に持っていった鉛筆や6年間使い続けたシャープペンシルは、自分とともに様々な困難を乗り越えてきた特別な文具、頼れる相棒とも言える。そうすると、それを軽々しく捨てることは、分身の破棄＝自分を捨てることにも等しいのではないか。少なく

ともそのように無意識に感じる人がいても不思議ではない。

また、未使用でいつまでも現役で使える文具の中でも、誕生日に貰ったキャラものの消しゴムやキラキラした鉛筆を見ていると小学校時代の楽しい記憶や思い出が蘇ってくる。このような文具は、同様にもったいなさから捨てられない未使用のタオルや試供品とは異なり、たとえ未使用であっても、それを手にした当時の色褪せない思い出を想起させる装置となり、ある意味ノスタルジアを感じさせるものになる。使っていなくても愛着のような不思議な気持ちが湧いてくる点も、文具の捨てづらさにつながっているのではないだろうか。

6. おわりに

今回、ゼミ生のエピソードや鉛筆に関する SNS 等への投稿を集めることで、まずは文具の捨てにくさの実態を克明に描き出し、さらにそれを踏まえて、捨てにくさには単純なもったいなさだけでなく愛着や罪悪感など多様な型があり、人々はその「捨てられない」悩みに対して様々な解決方法を模索していることが見えてきた。

捨てられない悩みの類型として ①なんでも溜め込み型・②罪悪感型・③愛着型、一方それにどう対処しうるのかのパターンとして ①供養型・②見て見ぬふり型・③相談型と、それぞれ 3 つのタイプをリアルな諸事例から導き出せたことが、本稿の成果のひとつといえるだろう。

しかし現実がこんなに綺麗に整理できないこともまた事実である。他者に相談することで手放すきっかけにするとっても、いざ行動するとなるとためらってしまうこともあるだろう。もちろん、今回分類した内の複数の要因が重なっていることもある。もったいなさで捨てにくいものは文具以外にもあるが、子どもっぽいデザインの鉛筆のように今後使う可能性が限りなく低いものであっても手放せない、言葉にできない感情によって手放せないというのは文具の持つ不思議な魅力によるものなのかもしれない。

【参考文献・ウェブサイト】

- ・『ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典』「文房四宝」「供養」
- ・文具女子博：『文具女子博 #インク沼』開催レポート（2019/10/11）
https://bungujoshi.com/news/ink_report/
- ・Eco Trading：ホームページ
<https://eco-friendly.site/>
- ・北星鉛筆株式会社：ホームページ
<http://www.kitaboshi.co.jp/>

- ・毎日新聞(2016/5/15)：「鉛筆供養：鉛筆に「ありがとう」親子連れら60人 大和郡山・西方寺／奈良」

<https://mainichi.jp/articles/20160515/ddl/k29/040/376000c>

- ・中島重久堂：新商品「TSUNAGO」

<http://www.njk-brand.co.jp/new/>

- ・NGO 時遊人：ホームページ

<https://jiyu-jin.org/>

- ・おち研：「短い鉛筆を海外に寄付しようとする前に考えて欲しいこと」

<http://www.02320.net/short-pencil-donation/>

以上すべて最終閲覧は2020. 8. 17.

*

『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ 2020』

〔2020年度「文化社会学演習」WEB版報告書〕 <https://bungu-narajo.org/>

2020年8月1日 編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会学科文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp